

会 議 録	
会 議 名	令和４年度第２回丸亀市放課後子どもプラン運営委員会
開 催 日 時	令和５年２月２８日 １０：００～１１：００
開 催 場 所	マルタス ROOM2
出 席 者	出席委員 和田 宏幸・奥田 勉・津野 洋美・原田 伸二・高橋 勝子・ 奥澤 日登美・香川 真実・野崎 晃広・好永 邦秀・塩田 康広 欠席委員 金丸 繁利 事務局として出席した者 末澤 康彦教育長・七座 武史部長・吉野 隆志課長・ 土井 節子副課長・富士川 美由紀担当長・ 渡邊 優花主事 傍聴者 なし
協 議 案 件	(１) 令和４年度丸亀市放課後子どもプランの現状と課題について ①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について ア) 令和４年度の実施状況 イ) 富熊青い鳥教室施設整備について ②放課後子供教室推進事業について
議事の経過及び 発言要旨	ー開会 午後１０時ー <ol style="list-style-type: none">委員紹介教育長あいさつ委員長あいさつ議事
委員長	①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について事務局より説明をお願いしたい。
委員長	【事務局説明】
委員	まず、青い鳥教室について意見等あれば、発言いただきたい。 今年度の青い鳥教室の運営状況としては、今に始まったことではないが支援員の不足により特に夏休み期間苦労した。特に新型コロナウイルスが流行したことによ

<p>委員長</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<p>り、児童を直接的に見ている支援員本人が陽性や濃厚接触者になることで、教室の開室に影響が出た。支援員の不足に関しては、教育委員会にも相談し、賃金の面などで手配して協力いただいている。</p> <p>しかし、お金の問題だけでなく業務の部分に課題があるのではないかと思う。今回、教室にパソコンを導入していただき、支援員の業務を改善していただき、負担を減らしているが、スタッフ不足については改善できていないのが現状である。</p> <p>支援員が不足していることで児童の受入れ人数の調整はしているのか。</p> <p>していない。</p> <p>青い鳥教室は1つの教室に児童が50人以上いる教室もあり、支援員は2人。実際休んでいる児童もあり全員が出席することは無いとは思いますが、本来、居場所ということ掲げている事業なのに子どものためではなく、働く大人のために作られている事業のように思われる。</p> <p>子どもが家庭の中や教育の場の中で不適切な対応を受けることをマルトリートメントと言う。虐待まではいかないが子どもにとって適切でない対応がなされる、見てしまう、聞いてしまう、体験してしまうことで子どもの脳の発達に虐待を受けたことと同じような状況になると言われている。そんな中で子どもの声を聞いていき、その場所の質や子どもを預かる事業の目的を見極めてやっていかないと子どもたちは疲弊してしまうと感じている。</p> <p>市内の小学校で青い鳥教室を小学校の校舎内に設置している学校は何校あるか。</p> <p>33 教室中 14 教室は校舎内に設置している。</p> <p>城坤小学校は資料 1-4 で3教室とも一人当たりの面積が足りていない状況である。城坤第 2 青い鳥教室については運動場にプレハブを新しく建てていただいたが、それでも面積が足りない状況である。第 1 と第 3 教室については小学校の校舎内にあり、いわゆる通常の教室に子どもたちがいるので一人当たりの面積が狭い。今回城坤小学校からの要望にも応えていただき、長寿命化改修で青い鳥教室を校舎外に出してもらい、運動場の一角に 2 階建てで建てることとなった。校舎内に青い鳥教室があるとトイレ等様々な制約や管理の問題もある。校舎外に青い鳥教室が整備され、広くなることで 1 人当たりの面積は解消されると思う。青い鳥教室の先生から発達障がいまたはその傾向のある児童への対応が非常に難しいという話を聞く。ハード</p>
--------------------------------	---

委員	<p>面とソフト面の充実をお願いしたい。</p> <p>支援員の先生によって差がとてもあると聞いた。厳しくすることが悪いわけではないが補助員として長い間支援している方も戸惑っている。</p>
委員	<p>青い鳥の教室の運営が担当になった支援員それぞれに任されているため、1 日の流れのルールがあるわけではない。保護者の方が安心して預けてよかったと思ってもらうにはどういうふうに伝えたらいいのか等ここでも様々な指導方針がある。青い鳥教室は家に帰ってくるようなイメージなので、支援員はお母さんやお父さんの代わりだと思う。生活面を見ていくのがルールだが支援員によっては厳しい方もおり、静かにさせていれば自分が楽なのでそういう指導をしている方もいる。</p> <p>しかしそれは、本来青い鳥教室のあるべき姿ではないと思う。どうしても、多くの児童を預かることで教室がざわざわしてしまい、叱ることも多くなる。理想は 40 名までだと思う。もしそれ以上であれば、支援員を増やしてほしい。</p> <p>発達支援の児童にも手厚い支援を行っていきたいと考えているが 50 人、60 人の児童を二人の支援員で受けていたら、トラブルになってしまうこともあるので支援員の人数や質に課題がある。</p> <p>支援員皆でどういうふうに対応しているか話し合う場を設け、相談できる場があれば支援員それぞれの対応の差は変わると思う。</p>
委員長	<p>支援員の勤務経験値や年度の状況によって、教室の雰囲気はかなり違ってくると思う。放課後支援の保育の質を考えていくときにある程度ガイドラインで定め、クオリティの維持が必要になる。ガイドラインがあることで支援員がどういう対応を取ればいいのか等、児童が不適切な対応を受けることも改善されていくかもしれない。それが返って親にもその話が広がっていけば、子育ての方法を学べる。</p>
委員	<p>パソコンの導入についてその日の児童が学校でどんな様子だったかデータで入っていれば、青い鳥教室に来た時に気にかけることができるため、学校との情報共有につながらと思うが、この辺りはどうなっているか。</p>
事務局	<p>普段の出席児童数や月の集計数を手書きで記入し、計算も電卓で行う業務改善のためパソコンを導入し、データ入力ができるよう研修も行った。現在の所、学校との情報共有をパソコンで行うことはなく、児童の情報共有については学校の先生との電話等での対応になる。</p>

委員	<p>児童が普段と違うことがある等、パソコンで見ることが出来れば青い鳥教室でも役立てることはできると思うが学校の先生に手間をかけさせてしまうと思う。今は電話連絡で児童の情報を聞き、支援が必要な児童に対しては、不安定な日は学校の先生が直接青い鳥に連れてきてくれる等一緒に対応している。パソコンの使用については、支援員の年齢層が高いため使いこなすのが難しく、勉強している状態である。</p>
委員長	<p>業務をスリム化するという事で来年度新しい課題等も出てくると思うが、支援員の業務改善につながり結果的に保育の質につながればよいと思う。</p>
委員	<p>資料 1-4 について平均の出席人数は大体どれくらいになるのか。</p>
事務局	<p>実際に出席している人数の平均は大体在籍者数の 8 割になる。</p>
委員長	<p>②放課後子供教室推進事業について事務局より説明をお願いしたい。</p> <p>【事務局説明】</p>
委員	<p>生涯学習クラブとの連携についてだが、様々な団体の方がいるので活動内容を多様化して実施していこうと考えている。わんぱくクラブは今まで畑を借りての野外活動が多かったが来年度以降、コミュニティで活動している団体との交流を目指している。</p> <p>また、交流することにより、生涯学習団体も活動の幅が広がると考えている。</p>
委員	<p>子供教室に関してもガイドラインが必要になるのではないかと感じる。子供教室は活動の内容を重視しているため、やはり子どもの声を聞くことが重要だと思う。4 教室閉室したことも含め、安易に教室数を確保するのではなく、目的をもって行うべきだ。</p>
委員	<p>日々の活動の中で地域の役割が大きくなっていると感じる。来年度は、保護者から 10 月の丸亀子どもデーでも受け皿として開室してもらえないかとの話があるため、長期休暇期間以外の活動を検討している。</p> <p>また、小中連携と言われているが、中学生になった途端に地域との関りがなくなるため、中学生にも地域の中で活躍できる居場所を作れたらよいと考えている。</p>
委員長	<p>青い鳥教室と違って子供教室は中身のメニューが問われてくるとは思うが、地域差もあると思うので、担い手をどういった手で引っ張ってくるのかを考えていかな</p>

	<p>ければならないと思う。わんぱくクラブの活動の成果によって、もしかすると他の地域の子供教室との連携や交流が出来るかもしれないので、地域の担い手づくりに繋がり、最終的に子どもたちに還元できればよい。地域の繋がりをいかに作るかに関して子どもたちから大人にはアクセスしてこないため、大人から子どもたちに向けて発信しないと繋がっていけない。</p>
委員	<p>今年度末まで Youtuber の人が中心になり、折り紙や切り絵でコミュニティを飾りつけする事業を実験的に行っている。地域の場合は、お年寄り、親、子どもと様々な年代の人との関りがあるため、自由な発想で行うことを重要視している。</p> <p>また、親からの希望を実現させテスト事業を行うことにより、気楽に取り組むことができる。</p>
委員長	<p>来年度の事業計画が出てきている中で、年度途中でテストとして実験的に同時並行で事業を行っていくと、新しい出会いや発見がある。柔軟に開発することで実施者も子どもたちも充実感が残る。</p> <p>また、親が休みの時に子どもたちと遊べない親が多い。そのため、遊べる親にしていくには、親にも地域と関わる経験が必要であり、子ども育てと親育てを両立して市の中で取り組んでいくことが必要だ。</p>
委員	<p>この会で議論しているのは、あくまで青い鳥教室や子供教室に参加できる児童の話だが、とても稀なケースで放課後デイサービスも受入れを拒否されている児童が現実にいる。その家庭は母子家庭で自営で仕事をされているため、児童と十分に関わっておらず、発達の弊害等が出てきており、どこへ行っても受入れを拒否される。その児童の場合、教員が家庭訪問し、子どもを見ていた現実がある。数として多くはないが、そういう児童もいることを知ってもらい、今後どういった方法を取るのか検討していただきたい。</p>
委員	<p>学校に不登校の児童が増えてきており、そちらへの支援も考えていかなければならないと思う。</p>
教育長	<p>青い鳥教室、子供教室、学校現場での課題に非常に共通点を感じた。それぞれの事業で熱意を持ってやっていただいているため、子どもたちが抱えている不安等を共有していかないと本当の解決にはつながらないと思う。</p> <p>市内にこのような委員様がいて子どもたちのことを考えて事業に取り組んでいた</p>

事務局	<p>だいていることは、とてもありがたく思う。</p> <p>本日の委員会を終了したい。お疲れ様でした。</p> <p>－閉会 午後 3 時－</p>
-----	---